

自殺者〇人の社会を目指して part.6 後編

前編の vol.66 で「ネット社会を中心に、屈辱の文化では、他人に恥をかかせる事に値札がついており、恥をかかせる事で利益を得る事ができます。これは危険な流れです。『さらし行為』は流行れば流行るほど容認される事になり、ネットいじめがさらに増えます。この状況を変えるにはどうすれば良いでしょうか？」と述べました。続きになります。まずは意識を変える事が大切です。私たちは今「屈辱の文化」を改めるべきです。「さらし」はもう終わりにするべきであり、問題解決を図る必要があります。そのために私たちがすべき事は「思いやりと共感を取り戻す事」です。今、ネット上では、思いやりと共感が圧倒的に足りないです。思い返してみると、私が苦しんでいた時、私を救ってくれたのは、家族や仲間たちの思いやりと共感でした。それは、時にあまり縁の深くない人だった時もありました。1人の共感でも効果はあるのです。仮に私のような考え方が少数派でも、一貫して主張し続ければ変化を起こせる。と信じています。温かい言葉はきつと癒しになります。私たちはよく表現の自由について語りますが、そろそろそれに伴う責任についてもきちんと語るべきです。私も含めて皆、自己主張したい。けれども、きちんと発言するのと目立とうとして発言するのは違います。ネットでは本能が出やすいです。けれども、他者への共感を示すことが大切です。そうすれば、社会は良くなります。ネットでのやりとりも情報入手も思いやりを心がけてする事が大切であり、他人の気持ちを考える事が大切です。次の未来に向けて、思いやりあふれるネット社会・現実社会を作っていく事が必要です。私たちはどういう風にするまえば良いか。考えていく時期です。自殺対策としてとらえると、遠回りに思われるかもしれませんが、でも、今この時点で、変えられるものは変えたいです。誇りを持って、次の世代の子供たちに「より生き心地の良い社会にしたよ！」って伝えたいです。これが私の実現したい社会です。「生き心地の良い社会」を話し合ってください。個々人の想いが集まれば、良い街が形成されると信じています。

今日も1日、素敵な日を過ごせますように。気をつけて行ってらっしゃいませ！

平成29年5月11日

増田好秀